

「津軽鉄道が結ぶまちづくり」

担当教員名 西城戸 誠

1 コースの概要

| | |
|------|----------------|
| 日 程 | 2013年2月21日～24日 |
| 場 所 | 青森県五所川原市、中泊町 |
| 参加人数 | 18名 |

2 コースの目的

このコースは、赤字が続くローカル路線の中でもファンが多いとされる津軽鉄道とその沿線の様々な地域活動を見学、体験しながら、奥津軽地方の「着地型観光」について考えていきます。着地型観光とは、従来型の発地型観光とは異なり、着地側が受け入れやすい観光を通じて観光地の人々と観光客の間によりコミュニケーションが生まれるような地域密着の観光のことを指します。企業組合・でるそーれの皆さんと一緒に、現実を見据えながら、奥津軽の「着地型観光」のモデルの一つを作り上げていくことが目的です。

3 事前学習

五所川原市の観光に関する文献の他、『観光と環境の社会学』（新曜社、2003年）、『体験交流型ツーリズムの手法』（学芸出版社、2008年）などを購読しました。

4 行程（内容）

1日目

五所川原市に到着後、駅周辺の街歩きをしました。「立佞武多の館」で五所川原の夏の風物詩・立佞武多を見学、紙貼り体験の後、アートと地域社会に関する講義を、立佞武多師（斉藤さん）、津軽金山焼（中鉢さん）、津軽塗（野崎さん）の若手職人の方から伺いました。夕食は、コミュニティ・カフェ・でるそーれの「うちごはん」をいただき、スコップ三味線のパフォーマンスも楽しみました。

2日目

津軽鉄道の冬の風物詩であるストーブ列車に乗車し、



津軽鉄道のストーブ列車に乗車

金木駅で下車、太宰治記念館（斜陽館）と新座敷を訪問し、太宰治に関わる観光資源を見学、その比較検討を行いました。その後、五所川原農林高校を訪問し、五農高校の取り組みや、津軽鉄道株式会社社長を交えた公開講座「津軽鉄道が結ぶまちづくり」に参加し、地域住民の活動とまちづくりに関する理解を深めました。夕食後、つがる市フィルムコミッションの川島さんから、映画を通して地域づくりの話の伺いました。

3日目

津軽半島最北の漁港・小泊漁協に向かいました。小泊漁協婦人部の方からのしいかづくりを教わり、また、昼食として「漁師めし」をいただきました。午後は、これまでの見学、体験を踏まえて、着地型観光のルートとそのコンセプトを作るグループ別の作業を行いました。地元でグリーンツーリズムや伝統料理教室を行っている「かけはしの会」による夕食の後、地元の方の前で各班が着地型観光についての発表会を開き、地元の方から講評をいただきました。

4日目

最終日は、冬のアスパラ収穫体験を行いました。ここではアスパラの栽培の加温のために、薪の暖房と学校給食の廃油を用いており、環境教育の場にもなっています。自ら収穫したアスパラのホイル焼きをいただき、五所川原に戻り、最後のまとめをしました。

5 事後学習

事後学習は、写真を見ながら奥津軽の着地型観光や、フィールドスタディのコンセプトについての話し合いの後、つがる市フィルムコミッション作成の映画『けの汁』を鑑賞し、「自分にとってのふるさととは何か」「地域との関わりはどうすべきか」などを考える時間になりました。

6 雑感

津軽の皆さんからの以下のメッセージをお伝えします。

机の上だけじゃ学ぶことのできない
ここでなければ巡りあうことができない
そんな時間と出会いが“ここには”ある



フィールドスタディでの「出会い」